

第6回9条世界宗教者会議報告

「憲法9条による世界平和-被爆地ヒロシマから」をテーマとする第6回「9条世界宗教者会議」(主催=「宗教者9条の和」などから構成される実行委員会)が13~15日、広島市中区の広島平和記念公園内国際会議場で開催された。アジアや欧米の12カ国・地域から仏教やキリスト教などの47団体、のべ約500人(各日170~180人)が参加した。

史上初の米朝首脳会談の翌日から始まった今会議。日本国憲法9条の「殺さない、殺させない」の精神を世界の宗教者と共有し、特に東アジア地域における正義と平和の世論を形成することを目的に2007年から隔年で開催されている。東京、ソウル、沖縄、東京、大阪と続き、今回は9条の原点を確認する意味をこめ「世界で最初の被爆地」広島での開催となった。

初日の開会式で、小野文琬氏(日蓮宗僧侶・お題目9条の会)は、米朝首脳会談を踏まえて、「北東アジアを非核・平和地帯にする大きなうねりが起こっているこの時、9条の精神を世界に高く掲げようと宗教者が広島の地に集まったことを一大因縁と捉えている」と挨拶。「絶対に9条を改憲させない」と強調した。

小橋孝一・今会議実行委員長(前日本キリスト教協議会議長)は、「9条は日本を守るだけでなく世界を平和にするための最も有効な手段だ。これを世界に訴えたい」と抱負。勝谷太治氏(日本カトリック正義と平和協議会会長)は、核兵器禁止条約の国連採決や米朝首脳会談の実現を踏まえて、「9条が“時代遅れ”なのではなく、時代がやっと9条に追いついてきた」との持論を述べた。

NPOピースデポ共同代表の湯浅一郎氏が、「北東アジアの平和と非核兵器地帯実現のために」と題して基調講演。欧州での「ベルリンの壁崩壊」後も北東アジアでは冷戦構造が現存していることを指摘し、「今、そこから抜け出す道筋が見えてきた。軍事力によらない安全保障の枠組み作りが始まっている」と展望した。

次に、在日韓国人2世として広島市で生まれた朴(パク)南珠(ナムジュ)さん(カトリック広島司教区観音町教会信徒)が被爆証言。女学校1年生の時に路面電車の中で被爆した経験を語り、「広島がなくなっていた。何の形もとどめていなかった...」と振り返った。そして「熱い、熱い、助けてくれ」と苦しみながら大勢の人が死んでいった惨状を話し、「今、日本は平和で豊かだが、たくさんの命の上に築かれたものであることを忘れないでほしい」と語った。

「海外から見た憲法9条」では、各国の発題者によって、「国を超えて異なる宗教を繋ぐ憲法9条の力」が再確認された。

翌14日から、国際共同声明に盛り込む内容を討議。日本が受けた戦争被害だけで

なく、日本がアジア各地で行った戦争加害の歴史に向き合うことを求める発言が海外の参加者から繰り返された。日本の参加者からも異口同音に、「どう



して宗教者は戦争協力をしたのか。戦前・戦中の懺悔をしないとまた同じことを繰り返す」という発言が続いた。。

同日夜は一般市民を招いて公開講座。「海外から見た憲法9条」をテーマに3人がリレートークを行った。青年代表のブリリアンナ・フエト氏(カナダ合同教会青年代表)は、「戦争と抑圧では正しい側が勝つのではなく、力の強い側が勝つ。だが他者を傷つけて平和を成し遂げることはできない」と表明した。



K・C・ポー氏（香港 / 中華基督教聖光堂牧師）は、広島への原爆投下を「人間を人間とみなさない」行為だと批判。その上で、日本がアジアで行った戦争加害の歴史も正視するよう求めた。

ジョニー・ソニパラ氏（ドイツ / ヘッセン・アンド・ナッソー教会）は、「私たちはグローバル化の時代に生き、国家主義と個人主義の風潮の中にも生きている。今、世界で歴史の極端な解釈が行われている」と危惧。「（国家を超えた）9条に関する宗教間の協力」の重要性を力説した。

韓国から約 30 人が参加。韓国キリスト教協議会の長尾有起氏（日本キリスト教団牧師・宣教師）は、朝鮮戦争を終結させる「平和条約キャンペーン」を紹介。米国や欧州、アジア各国での訪問活動について話し、朝鮮半島の平和的統一への協力を呼びかけた。

続いてコメディアンの松元ヒロさんの大爆笑ライブ。安倍政権批判など風刺のきいたネタや日本国憲法を擬人化した「憲法くん」を披露し、平和の尊さを訴えた。



最終日となる 15 日、共同声明を採択。日本国憲法 9 条を「世界の平和実現の道しる

べ」として北東アジアを非核兵器地帯にし、「武力に頼らない安全保障」体制を構築することを共通目標に掲げた。

その後、韓国人原爆犠牲者慰霊碑と原爆供養塔の前に移動し、「いのりの集い」。
韓国人原爆犠牲者に米国カリフォルニア州サクラメントの子どもたちが作った折り鶴が



供えられ、供養塔では水を献じてから各宗教の祈りが捧げられた。

共同声明は日英韓3カ国語で作成し、日本政府をはじめ与野党、全日本仏教会や国内外の各宗教宗派の本部などに提出。日本キリスト教協議会（NCC）のホームページにも掲示する。

お陰様で今回よりNCCJホームページからユーチューブにアップされる写真集と動画が閲覧できるようになり、広報力が大きく改善されました。

貴財団からの絶大なるご支援に、改めて心から感謝申し上げます。

《9条世界宗教者会議報告》

広島にて平和の願いを新たに

第6回9条世界宗教者会議が6月13～15日、広島国際会議場で開かれた。参加者はNCC加盟教会やカトリック、正教会など、キリスト教の諸教団、教団からも石橋秀雄議長をはじめ、多くの者が参加しこの会議を支えた。浄土真宗大谷派や本願寺派、日蓮宗日本山妙法寺、立正佼成会など仏教諸教派、それに海外から韓国、中国、台湾、香港、タイ、インド、ドイツ、オーストラリア、カナダ、イギリス、アメリカからと、総勢250名であった。

この会議はほぼ2年ごとに開かれるが、今回は被爆地広島原爆資料館に隣接する国際会議場で核の脅威の現実を身近に感じながら、また、国連での核兵器廃止条約の締結、韓半島の南北両首脳の歴史的な握手、米朝両首脳のシン

ガポールでの会談など、日本国憲法前文と9条がうたう本物の「積極的平和主義」を世界に広げることとを願う宗教者にとって前進を思わせる状況、また安倍政権の9条改変を政治スゲジュールに載せる暴挙が現実となっている中で行われた会議であった。

会議では、「東北アジアの平和と非核地帯実現のために」と題する湯浅一郎ピースデポ共同代表の講演や、被爆体験者の証言、沖縄、宮古などの状況、海外ゲストからのそれぞれの国での平和との取り組みの報告など多彩なプログラム、それに、グループ討議によってステートメントをまとめる作業など、宗教の枠を超えて平和を願う宗教者の深い思いを分かち合う機会となった。

会議を通して明らかになったこ

とは、日本にとって9条は自国の安全と平和を願う意思の表れであるばかりでなく、世界の国々に対して、特に近隣のアジア諸国に対して再び侵略の過ちを犯さないとの懺悔と誓いであること、また、それぞれの宗教の教義の中心に9条の求める平和主義があることなど、「世界の」「宗教者の」集いならではの自明の事柄であった。憲法9条を保持しなければとの強い意志は悔い改めと懺悔から出発しなければ、どの仏教者からのメッセージがあり、戦時下の教団をあげての戦争協力に対する強い反省が仏教者の中にもあることを知らされた。

最終日、慰霊塔の前で各宗教団体がそれぞれの祈りをする集いをもって会議を終えた。

(秋山 徹報)

9条世界宗教者会議

ヒロシマから9条の力発信

広島平和記念公園内国際会議場で開かれた「憲法9条による世界平和―被爆地ヒロシマから―」をテーマとする第6回「9条世界宗教者会議」(主催「宗教者9条の和」など)から構成される実行委員会、13~15日。12カ国・地域から集まった宗教者のべ約500人が、日本国憲法第9条の国際的な意義を提示。「北東アジアを非核兵器地帯にする」には、仏教やキリスト教など全ての宗教に通底する9条の「不殺生」の精神が必要であることを改めて確認した。

北東アジアを非核地帯に

欧州での「ベルリンの」る「不信と憎悪」の連鎖「安全保障シレンマ」を増幅させてきた。この悪循環を断ち切るには、憲法9条を軸にした国家間の信頼構築が最も有効だとい

う。

米朝首脳会談の翌日となる13日、「北東アジアの平和と非核兵器地帯実現のために」と題して基調講演を行った。その上で、日本政府には米朝首脳会談を契機として「憲法9条を活かした外交政策への転換」を要望。さらに「1910年の韓国併合から始まった植民地政策に伴う加害の歴史に対して、韓国や中国には一定の清算をしているが北朝鮮に対しては何もしていない」とし、この視点が拉致問題の解決に向けて重要になるとの見解を示した。

「海外から見た憲法9条」では、各国の発題者によって、「国を超えて異なる宗教を繋ぐ憲法9条の力」が再確認された。日本は平和の大使にスコットランド教会の2氏は「破壊の時代を経験した日本国民が世界に約束した宣言文である憲法9条を保持すべき」と強調。タイの仏教者は、「憲法9条は戦争被害を与えたアジアの国々への平和の契機になっている」とし、「日本は平和外交に徹して、平和の大使として世界に貢献してほしい」と要望した。

諸宗教に通底する不殺生の精神

14日夜は一般市民を招いての公開講座。「海外から見た憲法9条」をテーマに3人がリレートーク。若手代表のブリリアン・フエト氏(カナダ合同教会青年代表)は、「戦争と抑圧では正しい側が勝つではなく、力の強い側が勝つ。だが他者を傷つけて平和を成し遂げることはできない」と表明した。

K・C・ポー氏(香港中華基督教聖光堂牧師)は、広島への原爆投下を「人間を人間とみなさない」行為だと批判。その上で、日本がアジアで行った戦争加害の歴史も正視するよう求めた。ジョント・ソニバラ氏(ドイツ・ヘッセン・アンドナッソー教会)は、「私たちはグローバル化の時代に生き、国家主義た。



公開講座で9条への思いを発表する海外の宗教者

と個人主義の風潮の中にも生きている。今、世界で歴史の極端な解釈が行われている」と危惧。「(国家を超えた)9条に関する宗教間の協力」の重要性を力説した。

戦争協力を懺悔

海外の宗教者が示した「憲法9条への熱いまなざし」に、日本の宗教者はどう応えるのか。9条改憲が現実味を帯びてきた今、その是非を含めて宗教界全体で深く議論すべきだろう。



仏教者による開会祈祷。各宗派の教えと憲法9条の共通性を確認した

「北朝鮮は2003年のイテ

9条世界宗教者会議

ヒロシマから9条の力発信

戦争協力の歴史を正視

「憲法9条による世界平和・被爆地ヒロシマから」をテーマとする第6回9条世界宗教者会議(6月13・15日、広島平和記念公園内国際会議場)で、宗教者として戦争加害の事実を正視する必要性が討議された。「世界で初めて原爆が投下された広島は、最大の戦争被害地である。だが同時に戦前・戦中は軍都であり、アジア侵略の拠点だった」。主に海外の参加者から、こうした視点が繰り返して提起された。

「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「神風特攻隊の娘」で

「戦後40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「戦後40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

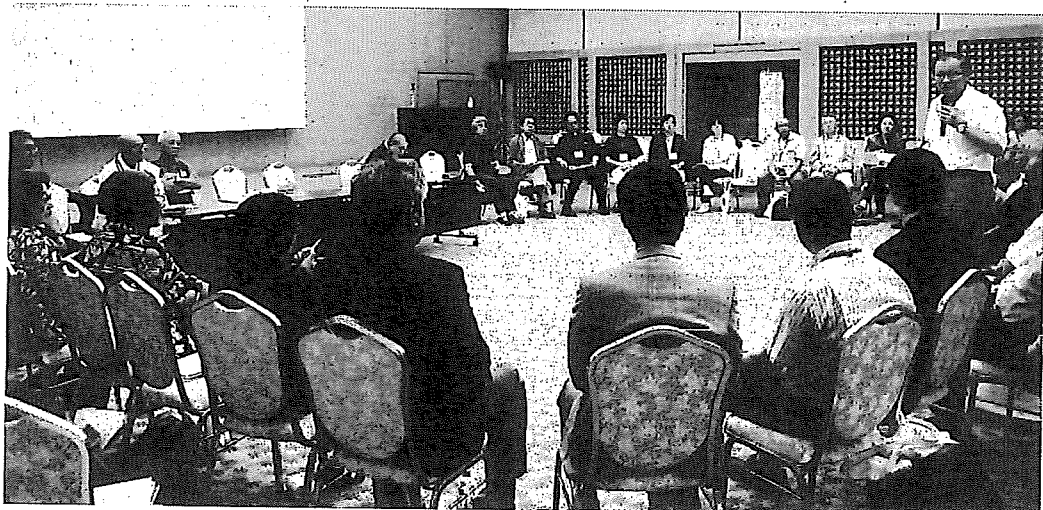
「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

各宗の教えと合致

浄土真宗本願寺派僧侶の正木峯夫氏(念仏者9条の会)は、「仏教でもキリスト教でも宗教者が懺悔の思いを根底に据えて行動を起こさなければ、誰も相手にしてくれないだろう」と強調。他の参加者からも異口同音に、「どうして宗教者は戦争協力をしたのか。戦前・

国際共同声明に盛り込む内容を討議。議論は「戦前」をめぐり「熱」が



「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。

「戦中、戦争責任を正視しないまま、戦後の40年、アメリカで牧会をした」と名乗ったキリスト者は、「日本はかつて戦争に加担し、アメリカは今でも常に戦争を」と告白した。



原爆供養塔の前での「いのりの集い」

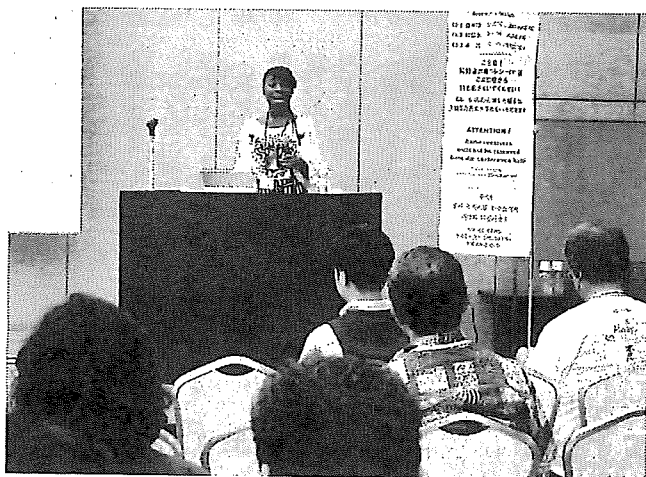
理想と矛盾 期待される宗教者の行動

9条の会(ひん)は、「日本の宗教者はそれぞれの教えを投げ捨てて侵略戦争を、正義の戦い」として推進し、信者を戦場に送り出した。戦場で飛んでくる弾は浄土の使いなどという説は、戦争で奪われた命を国に捧げた命として覆い隠す役割を果たしてきた」と懺悔。戦後70年、憲法9条を変えずに来た原動力は「誰にも悲惨な戦争を経験させたくない」という思いに尽きる。この広島でその原点を確認し、世界の宗教者との連帯を深めることができた」と手応えを語った。9条が繋ぐ宗教者の国際的な連帯行動が期待される。

増している。会議では、沖縄県と山口県岩国市の米軍基地増強の問題が提起され、「憲法9条がある国にアジア最大の在日米軍基地がある矛盾」が浮き彫りになった。坂口聖子・日本キリスト教団宮古島伝道所牧師は、沖縄県宮古島の「陸上自衛隊ミサイル部隊配備計画」の現状を報告。「東洋一美しいと言われるビーチがある島の要所で、工事が急ピッチで進められている。島嶼防衛の名のもと、このままでは軍事要塞化されてしまう」と訴えた。大川清・日本キリスト教団岩国教会牧師は、「殺さない殺させない」という精神で真かれた9条を持つ国が、「どんな攻撃力を高めていく。平和のために軍事力が必要だろうか」と悲痛な表情で問いかけた。

国を超える9条の力

ヒロシマで9条世界宗教者会議



12カ国・地域の宗教者が9条の精神を共有

初日の開会式で、小野
文珖氏（日蓮宗僧侶・お

東京、ソウル、沖縄、東京、大阪と続き、今回は9条の原点を確認する意味をこめ「世界で最初の被爆地」広島での開催となった。

一殺さない、殺させない」の精神を世界の宗教者と共有し、特に東アジア地域における正義と平和の世論を形成することを目指す。2007年から隔年で開催されている。

史上初の米朝首脳会談の翌日から始まった今会議。日本国憲法9条の

「憲法9条による世界平和と被爆地ヒロシマから」をテーマとする第6回「9条世界宗教者会議」（主催「宗教者9条の和」などから構成される実行委員会）が13・15日、広島市中区の広島平和記念公園内国際会議場で開催された。アジアや欧米の12カ国・地域から仏教やキリスト教などの47団体、のべ約5000人（各日1700～1800人）が参加。日本国憲法9条を「世界の平和実現の道しるべ」として北東アジアを非核兵器地帯にし、「武力に頼らない安全保障」体制を構築することを共通目標に掲げた。

題目9条の会)は、米朝
首脳会談を踏まえて、「北
東アジアを非核・平和地
帯にする大きなうねりが
起こっているこの時、9

条の精神を世界に高く掲げようと宗教者が広島島の地に集まったことを一太因縁と捉えている」と挨拶。「絶対に9条を改憲させない」と強調した。

小橋孝一・今会議実行委員長（前日本キリスト教協議会議長）は、「9条は日本を守るだけでなく世界を平和にするための

た」との持論を述べた。
NPOピースデポ共同代表の湯浅一郎氏が、「北東アジアの平和と非核兵器地帯実現のために」と題して講演。欧州での「ベルリンの壁崩壊」後も北東アジアでは冷戦構造が現存していることを指摘し、今、そこから抜け出す道筋が見えてき

最も有効な手段だ。これを世界に訴えたい」と抱負。勝谷太治氏（日本電力トリック正義と平和協議会会長）は、核兵器禁止条約の国連採決や米朝首脳会談の実現を踏まえ、**「9条が『時代遅れ』なのではなく、時代がや**っと9条に追いついてき

た。軍事力によらない安全保障の枠組み作りが、まわっている」と展望した。

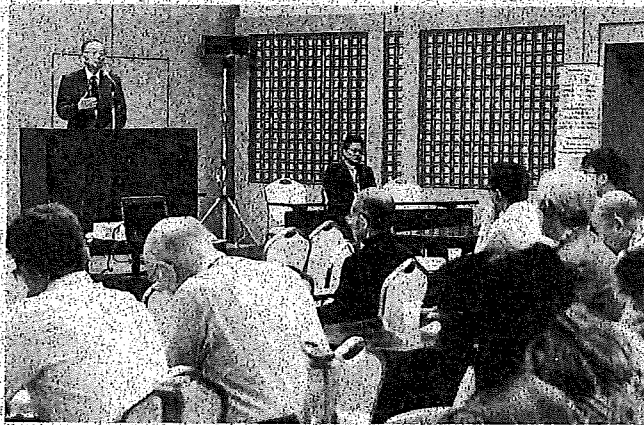
次に、在日韓国人2世として広島市で生まれた杉南珠さん（カトリック広島司教区観音町教会会徒）が被爆証言。女学校1年生の時に路面電車の中で被爆した経験を語り、「広島がなくなっていた。何の形もとどめてはなかった…」と振り返った。そして「熱い、熱い、助けてくれ」と苦しみながら大勢の人が死んでいった惨状を話した。今、日本は平和で豊かだが、たくさん命の上に築かれたものであることを忘れないでほしい」と語った。

た。

「海外から見た憲法九条」では、各国の発題者によつて、「国を超えて異なる宗教を繋ぐ憲法9条の力」が再確認された。

翌14日から、国際共同声明に盛り込む内容を討議。日本が受けた戦争被害だけでなく、日本がアジア各地で行った戦争加害の歴史に向き合うことを求める発言も海外の参加者から繰り返しなされた。15日に共同声明を採択して閉会した。

9条と平和 宗教者討論 広島で世界会議始まる



世界各地の宗教者が集った「9条世界宗教者会議」の開会式

「憲法9条による世界平和」をテーマに、10カ国・地域の仏教やキリスト教の宗教者たち約170人が集う「9条世界宗教者会議」

が13日、広島市中区の広島国際会議場で始まった。意見発表や討論を経て15日に共同声明を発表する。2007年に東京で初開

催し、ソウルや沖縄などに続き6回目。開会式で小橋孝一実行委員長(80)「日本キリスト教協議会前議長」が「必要なのは9条を世界に訴え、自ら実践し、有効性を明らかにすること」とあいさつし、基調講演や、在日韓国人被爆者の証言を聞く会などがあつた。

14日は午後7時から公開講座(参加費千円)を設け、コメディアン松元ヒロさんの公演や海外からの参加者によるリレートークがある。

(久行大輝)

第6回 9条世界宗教者会議

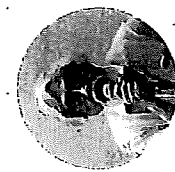
武力放棄し平和を築く 憲法の“力”を再確認

憲法改正論議が焦点の一つとなる連帯国会（6月20日～）会中の6月19日から21日、宗教者が憲法9条を国内外に向けて発信する「9条世界宗教者会議」（主催・回覧連帯日本連帯委員会〈委員長・小堀孝一〉）が広島平和記念公園（広島市）の国際会議場で開かれた。日本カトリック正義と平和協議会会長・勝安達司主教（札幌教区）と日本の30名以上の宗教者が参加。『憲法9条による世界平和と核廃絶のロジック』をテーマに、武力を放棄し平和を築く9条の“力”を再確認した。

広島



講演を聞く参加者たち。広島平和記念公園の国際会議場で



勝安達司主教

27日の「枢密院」
と②参議院、6月
12日の米国・北朝鮮間
首脳会談で出されたは
かりの「共同声明」に
言及。両国により、朝
鮮半島が冷戦構造を脱

却する進展が見えるこ
ろを、冷戦終結から
30年。しかし、ベリ
ーの懸念を導いた
「共通の安全脅威を多
国間対話で形成する

れは北米アジアに及
ぼす、朝鮮戦争（19
50年～53年）は今も
休戦状態にある。
湯浅さんは、北朝鮮
を脱して安楽な国を
「強行成立」9条改正
を「画策」する日本の問
題を指摘。核開発を進
める北朝鮮や米国の姿
勢をめぐって北米ア
ジアの国際政治は相互
不信から核軍拡競争の
悪循環を生んでいる。
そうした中、枢密院
言は「韓国・北朝鮮
だばでできないと、
を目標にした時に特徴
がある。目標の實現に
向け、米軍を食む多
国間の会談が盛り込

まれた。
朝鮮半島は今、初
の米朝首脳会談の實現
など数十年なかった動
きが頭上だ。湯浅さん
は、バク・クネ韓国前
大統領の不正腐敗への
怒りから、シエラ
レオネを証言させた信
民の思いが今の状況を
つくったと分析。憲法
9条を持つ日本の市民
や一人一人が軍事力
で平和を築くことば
きないの信念を持つ
ことが大切だと語った。
広島で被爆したバ
ク・ナジミさん（広
島・朝聖教会）は、
自身の体験を証言。
国内外の参加者たち
も憲法9条にける意
い希望を語った。
仏教国際連帯会議
（INIB）事務局長
のンター・チン
グンターさんは、
憲法9条は、日本が軍
事大国化し世界の脅威
になりつつある現状を

憲法第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする
国際平和を護るに努め、国権の発動た
る戦争、武力による威嚇又は武力の行
使は、国際紛争を解決する手段として
は、永久にこれを放棄する。
2 前項の目的を達するため、陸海空軍
その他の戦力は、これを保持しない。国
の交戦権は、これを認めない。

【福音】
教会で奉仕する司祭
日本の教会
難民・外国人労働者
※4面記事参照

2018年7月
『きよさをさげる』

カトリック新聞社
〒138-8585 東京都江東区豊洲3
丁目10番10号
電話 (03) 5622-4432(代表)
(03) 5622-4433(編集)
(03) 5622-4434(広告)
FAX (03) 5622-7030
寄附口座000170-4-190903番
Eメール 編集部 edit@cwjpn.com
読者部 reader@cwjpn.com
URL www.cwjpn.com/cw/02
○カトリック新聞社 2018
定価1部 162円(本体 150円)
印刷部経費金(国内)
1年(48回) 9744円消費税17.55
半年(24回) 4872円消費税8.78

選挙させる「力の源」
だと強調した。
軍事基地をめぐる報
告は、牧師の坂口聖
子さん（日本基督教団
名古屋伝道所〈神護〉）
が名古屋に進む陸上自
衛隊ミサイル部隊配備
計画の現状を解説。島
民に不安な中、
9条の碑を掲げる島民
の教会で始まった住民
らの基地反対集会を起
教派のまじりと教団
などの新たな連帯につ
いて分る合った。
最終日には、9条改
正への賛意や現状への
見解、望みを示した声
明を賛賛。全文は近く
日本カトリック教団
のホームページ（<http://ncc-j.org/>）
に掲載される。